

# 奈良森林管理事務所

担当者

森林技術指導官：高山伸昌

TEL：050-3160-6105

- ▶ 奈良県の森林は、日本一の多雨地帯である紀伊半島のほぼ中央に位置し、近畿の主要河川の重要な水源となっており、森林のうち、人工林は62%を占め、県土の77% (284千ha) が森林であり、これは全国7番目の人工林率です。また、森林の齢級別構成をみると、昭和期に植栽された多くの森林が伐採期 (11齢級 (51年生) 以上) を迎えています。これは、全国的にも同じ状況ですが、他県にはない本県の特徴としては、19齢級 (96年生) 以上の森林が約1.7万haと多く残されていることがあげられます。

民有林の1ha当たりの森林蓄積量は278m<sup>3</sup>で全国第12位、人工林率は62%で全国第7位ですが、林業算出額は37億円で全国第28位となっています。また、吉野川上流地域 (川上村、東吉野村、黒滝村) は「吉野林業地域」と呼ばれ、林業遺産にも登録された集約的施業による我が国固有数の優良材生産地です。

一方、県内の国有林率はわずか4% (12千ha) と低いが、管内国有林の多くは大峰山系を中心とした奥地脊梁地帯に分布しており、国土保全、水源かん養等の公益的機能の発揮に寄与しています。また、国有林の一部は、吉野熊野国立公園及び高野龍神国定公園及び世界遺産 (熊野古道) のバッファゾーンとして指定され、修験者や多くの登山者が訪れる場として利用されています。

- ▶ 奈良県内の森林は利用期に達しており、今後主伐期を迎えることから、地域林業の活性化のためにも路網の整備と低コスト化への取組みが重要です。奈良県の実情に応じた林業専用道及び低コストの素材生産システムの導入を進めるため、奈良県と共催で実施した林業専用道の現地検討会を開催し、路線設定と急傾斜地での最低限の構造物施工状況を説明しました。また、奈良県と当所からそれぞれ情報提供を行い、意見交換を実施しました。
- ▶ 国有林が所在する市町村の地域課題や共通課題について、各市町村の担当者から幅広い情報収集を行いながら、今後、各課題の解決に向けて連携した取組を展開することとしています。



(森林共同施業団地における連絡調整会議の様子)

## 治山対策の推進

### 【課題2】 民有林直轄治山事業の推進による被災地の早期復旧 (継続)

#### 【取組状況】

- 民有林で発生した大規模な山腹崩壊について、奈良県からの要請により民有林直轄治山事業による復旧事業を実施。
- 奈良県との治山事業連絡調整会議等により、国有林、民有林間の事業の調整及び情報の共有を実施。
- 奈良県、十津川村との保安林指定に関する連絡調整会議を11月15日に開催。

#### 【成果と今後の課題】

- 今年度、民有林直轄治山事業により16箇所 (五條市3箇所、十津川村1箇所、野迫川村1箇所、天川村1箇所) の復旧事業を行い、地域の安全・安心の確保に寄与。
- 国有林、民有林が近接している地域において、一体的な全体計画を作成し、国有林と民有林が連携して効率的・効果的な荒廃地の復旧整備を実施。
- 現地検討会の実施により、施工上の問題点や対処方法等について情報の共有を図り、知識・技術の向上に寄与。

【天川村川坪内区の復旧の様子】



【十津川村山崎谷 復旧の様子】



【奈良県、十津川村との連絡調整会議】



【野迫川村檜股 復旧の様子】



## 獣害対策

### 【課題3】シカ等による森林被害への対策（新規）

#### 【取組状況】

- 7月14日、奈良県森林被害緊急対策広域協議会（県、野迫川村、十津川村、五條市、森林総研、奈良県森林技術センター、奈良所）に参画し、ニホンシカの捕獲事業について、国有林内での実施に協力。
- 奈良県の事業であるわな猟は野迫川村森林組合（猟友会野迫川支部と連携）へ事業を委託。銃猟については、（一社）奈良県猟友会に委託。
- 3月17日、第2回奈良県森林被害緊急対策広域協議会において、平成28年度事業の総括を行い、事業報告書について意見交換を実施。

#### 【成果と今後の課題】

- 桧股国有林において、10月4日より、くくり罠、箱罠によるシカ緊急捕獲実践事業を実施したが、ツキノワグマの錯誤捕獲等が発生したため一時中止。12月5日、事業を再開し、2月17日まで実施。
- わな猟で11頭（桧股国有林）、銃猟で5頭（民有林）合計16頭を捕獲。  
なお、当初予定していた伯母子国有林は、ニホンシカの新しい足跡が少なかったなどの理由により、同事業箇所から除外した。
- 積雪により、事後調査が行えず、十分な検証ができなかったことから、地域の特性も考慮した事業実施時期の検討が必要である。
- シカ捕獲による植生回復の検証を継続して行う必要がある。
- 平成29年度は、国有林においても事業費を確保し、奈良県、野迫川村等関係者と連携して実施する必要がある。このため、実施時期、実施場所、罠の形式等について、早期に調整を図る必要がある。



（国有林における新植地の食害）



（奈良県森林被害緊急対策広域協議会の様子）



（箱罠の設置及び誘引状況）



（くくり罠による捕獲状況）

## 森林病害虫対策

### 【課題4】 ナラ枯れ被害対策の推進（新規）

#### 【取組状況】

- 奈良県ナラ枯れ対策会議に3回出席し、国有林の被害状況等について情報を提供。
- 8月から9月にかけて緊急度の高い箇所の国有林において被害木の調査を行い、秋期駆除は、12月12日入札し、契約を締結後、3月まで実施。
- 平成29年度春駆除については、3月23日、入札公告を実施。

#### 【成果と今後の課題】

- 平成28年度春駆除は、地獄谷国有林外1において、伐倒処理として422m<sup>3</sup>、立木燻蒸処理として300m<sup>3</sup>を実施。
- 秋駆除は耳成国有林外6において、伐倒処理105m<sup>3</sup>、伐倒燻蒸処理497m<sup>3</sup>を実施。
- 情報の提供により、奈良県においてナラ枯れ被害状況報告の作成に寄与。
- 平成29年度春駆除は、地獄谷国有林外1において、伐倒燻蒸処理等265m<sup>3</sup>を実施予定。
- 奈良県内のナラ枯れ被害は拡大傾向にあることから、国有林の被害状況について確実に把握しておく必要がある。
- 平成29年度も、緊急度の高い箇所の国有林において事業費を確保して継続的に実施する必要がある。



(奈良県ナラ枯れ対策会議の様子)



(カシノナガキイムシによる被害木)



(立木燻蒸処理の様子)



(伐倒・棚積み処理の様子)



(立木燻蒸処理施行の様子)



(伐等燻蒸処理済み)

## 山村振興

【課題1】 森林共同施業団地内の連携強化と新規参画者拡充  
(継続)

### 【取組状況】

- ・ 桧股国有林において、平成25年度から27年度にかけて林業専用道を約1,700mを新設。
- ・ 奈良県林業振興課及び南部農林振興事務所と「府県と国有林の森林総合監理士等による市町村等の支援に係る連携強化」のモデル地区に桧股地区森林共同施業団地を対象として取り組むことについて協力を要請。
- ・ 共同施業団地の連絡調整会議を開催し、林業専用道の現地見学会、事業実績と計画等の情報交換を実施。さらに野迫川村、野迫川村森林組合へは民有林との合意形成への協力要請。
- ・ 木原造林(株)の社有林において、国有林から連結した作業道作設申請に対して、協定書に基づき事務処理を実施。

### 【成果と今後の課題】

- ・ 民有林と国有林が相互に利用できる効率的な路網の新設により、民有林の間伐等の森林整備計画に寄与。
- ・ 奈良県林業振興課と共催した桧股林業専用道の現地検討会を10月24日から25日に開催し、奈良県及び和歌山県の林務担当者等延べ75名が参加。林業専用道の路線設定と急傾斜地での最低限の構造物施工状況を説明。また、奈良県と当所からそれぞれ最近の林業を取り巻く情勢等について、情報提供及び意見交換を実施。
- ・ 周辺民有林について、不在村者が多く合意形成がかなり難しい。
- ・ 民有林と国有林が連携した森林整備事業及び丸太の協調出荷販売について、それぞれの契約方法が異なるためかなり難しい。
- ・ 継続して、協定者間で情報交換を密接に行う必要がある。



(連絡調整会議出席者への作業道取り付け箇所の説明)



(連絡調整会議出席者への事業計画の説明)



(林業専用道現地検討会の様子)



(奈良県と奈良所による情報提供の様子)